



# Sun Fire™ V20z および Sun Fire V40z サーバー

---

設置マニュアル

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 817-6146-16  
2005 年 7 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers—Installation Guide  
Part No: 817-5246-16  
Revision A



# 目次

---

1. ハードウェアの設置と起動 1
  - 設置の概要 1
    - ユーザーマニュアル 2
    - 関連マニュアル 3
  - 安全性に関するガイドライン 3
  - サーバーのラックへの設置 4
  - ケーブル配線 9
    - Sun Fire V20z サーバーに関する注意事項 9
      - Ethernet ポートのラベル 9
      - PCI スロットのラベル 10
    - Sun Fire V40z サーバーに関する注意事項 11
      - Ethernet ポートのラベル 11
  - サーバーのデジチェーン 12
  - サーバーの電源投入と起動 15
2. ソフトウェアの初期設定 21
  - サービスプロセッサの設定 22
    - SP のネットワーク設定の定義 22
      - DHCP を使用した SP のネットワーク設定の割り当て 22
      - 静的な SP のネットワーク設定の割り当て 24

初期マネージャーアカウントの作成	26
コマンド行を使用した初期アカウントの作成	27
SM コンソールを使用した初期アカウントの作成	27
サーバー名の定義	29
サーバーの管理およびプラットフォームソフトウェア	30
ネットワーク共有ボリュームの構造	31
NSV ソフトウェアのインストールおよびマウント	32
プラットフォームのオペレーティングシステムとドライバの設定	34
索引	35

# 第1章

---

## ハードウェアの設置と起動

---

手順を実行する前に、正面パネルや背面パネルなど、Sun Fire™ V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーの物理的な配置や機能について理解する必要があります。サーバーの詳細な情報については、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—ユーザーマニュアル』を参照してください。

---

### 設置の概要

サーバーを開梱したら、このマニュアルの指示に従って次の作業を実行します。

1. 取り付ける PCI 拡張カードまたはハードウェアオプションを追加します。システムカバーの取り外しと交換、およびハードウェアオプションの取り付けについては、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—ユーザーマニュアル』またはハードウェアオプションに同梱されているマニュアルを参照してください。
2. 必要に応じて、注文可能なスライドレールを使用して、ラックにサーバーを設置します。4 ページの「サーバーのラックへの設置」を参照してください。
3. すべてのケーブルと電源コードを接続します。このマニュアルの 9 ページの「ケーブル配線」を参照してください。
4. 周辺装置を接続します。サーバーの背面パネルにあるコネクタポートについては、このマニュアルの図 1-8 を参照してください。
5. このマニュアルの 15 ページの「サーバーの電源投入と起動」の説明に従って、サーバーの電源を入れて起動します。
6. このマニュアルの第 2 章の説明に従って、ソフトウェアの初期設定を行います。
7. サーバーを設定し、用途に合わせてカスタマイズします。詳細は、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—サーバー管理マニュアル』を参照してください。

# ユーザーマニュアル

Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの両方に関する最新のユーザーマニュアルは、次の Web サイトで参照してください。

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup\\_Servers/Sun\\_Fire\\_V20z/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup_Servers/Sun_Fire_V20z/index.html)

このサイトでは、ユーザーマニュアル、リリースノート、および顧客交換可能ユニット (CRU) に関する個々のマニュアルが参照できます。

サイト上のマニュアルが、使用しているマニュアルよりも新しいかどうかを確認するには、マニュアルの Part No. の下 2 桁 (ダッシュ以降) を調べてください。

---

**注** - また、Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーのリリースバージョン間での違いについて説明しているマニュアルも、この Web サイトから入手できます。Part No. (PN) 817-7185 のマニュアルを参照してください。

---

## 関連マニュアル

用途	タイトル	Part No.
安全性に関する情報	『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』	816-7190-xx
安全性に関する注意事項 および国際的な規格への 適合性の保証	『Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers—Safety and Compliance Guide』	817-5251-xx
保守手順およびその他の 情報	『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー— ユーザーマニュアル』	819-2918-xx
サーバー管理	『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー— サーバー管理マニュアル』	819-2923-xx
オペレーティングシステ ムのインストール	『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー— Linux オペレーティングシステムインストール マニュアル』	817-6156-xx
障害追跡および診断	『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー— 障害追跡手法および診断マニュアル』	819-2928-xx
最新情報	『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー— ご使用にあたって』	819-2913-xx

## 安全性に関するガイドライン

Sun Fire V20z サーバーと Sun Fire V40z サーバーは、IT 電源システムに安全に接続できます。



製品に使用されている「感嘆符付き三角」記号は、安全性に関する重要な情報である、次のフィンランド、ノルウェー、およびスウェーデンの国別規格への参照を示します。

- 日本語: アースタイプの接続プラグが付いた電源コードは、アースタイプの電源コンセントで使用する必要があります。
- Finnish: Laite on liitettävä suojamaadoituskoskettimilla varustettuun pistorasiaan.
- Norwegian: Apparatet må tilkoples jordet stikkontakt.
- Swedish: Apparatens skall anslutas till jordat uttag.

---

# サーバーのラックへの設置

---



**注意** – Sun Fire V40z サーバーの重量は 34 kg (75 ポンド) です。サーバーを持ち上げたり移動したりする場合は、怪我をしないように注意してください。サーバーの移動や取り付け作業は、2 人で行うことをお勧めします。必ず、ラックの下から上へと、もっとも重いものから順に取り付けてください。

---

スライドレールを使用してラックにサーバーを設置するには、次の手順を実行します。

## 必要な工具類

- ねじを取り付けるためのプラスのねじ回し (2 番)
- 

**注** – ラックにサーバーを設置する前に、すべての PCI 拡張カード、増設メモリー、およびその他の追加オプションが取り付けられていることを確認してください。ラックへの搭載が簡単に行えるように、サーバーのケーブル接続は、ラックに設置する前に行わないでください。

---



**注意** – Sun Fire V40z サーバーに「はじめて」電源を入れる前に、サーバーの PCI カードスロットおよび CPU カードスロットから梱包用の挿入具を取り外して、通気と冷却が適切に行われるようにする必要があります。これらの梱包用の挿入具は、輸送中の保護の役割を果たすものであるため、廃棄してもかまいません。挿入具の取り外しについては、15 ページの「サーバーの電源投入と起動」を参照してください。プラスチック製のエアバッフル挿入具は、PCI スロットから取り外さないでください。

Sun Fire V40z サーバーの更新リリース (シャーシパーツ番号 [PN] 380-1206) は、PCI カードスロットに梱包用の挿入具が挿入されていない状態で出荷されます。

---

1. 図 1-1 または図 1-2 に示すように、サーバーの両側面に固定部品を 1 つずつ取り付けます。

サーバーの側面にある、正面側から 3 つの位置決め用のピンに、固定部品の 3 つの穴を合わせます。中央の固定用の爪がカチッと音をたてて固定されるまで、固定部品を前に向かって押し込みます。

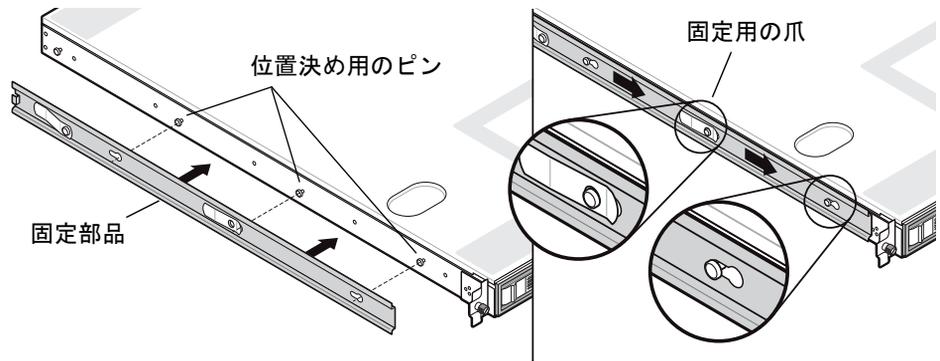


図 1-1 Sun Fire V20z サーバーへのスライドレールの固定部品の取り付け

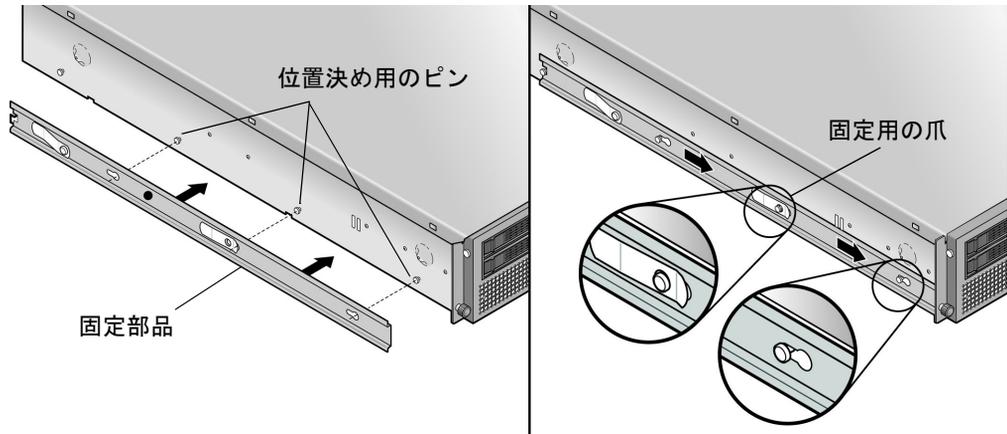


図 1-2 Sun Fire V40z サーバーへのスライドレールの固定部品の取り付け

2. 図 1-3 に示されているように、ラックの両側面にスライドレール構成部品を 1 つずつ取り付けて、付属のねじを使用して固定します。

図に示すように、レールの調整可能な留め具が付いている方の端を、ラックの背面側に合わせる必要があります。

---

注 – 正面側の各固定部品の中央のねじ穴は、サーバーのつまみねじ用に空けておいてください。

---

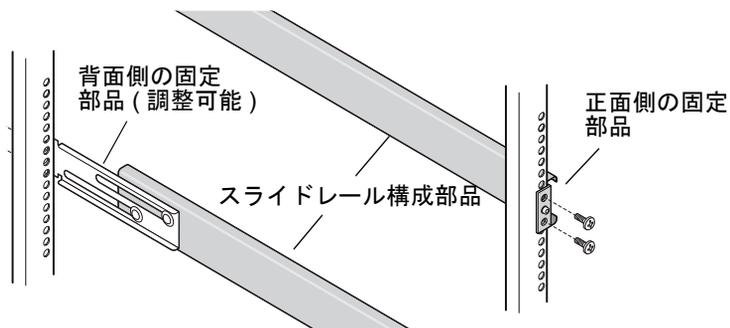


図 1-3 ラックへのスライドレールの取り付け

3. 構成部品が取り付けられたサーバーをスライドさせてラックに挿入し、スライドレール構成部品の内側に固定部品の底面をはめ込みます (図 1-4 または図 1-5 を参照)。  
サーバーをスライドさせてラックに挿入するときに、固定部品が通るように、外側のスライドレールの固定用の爪を押します。

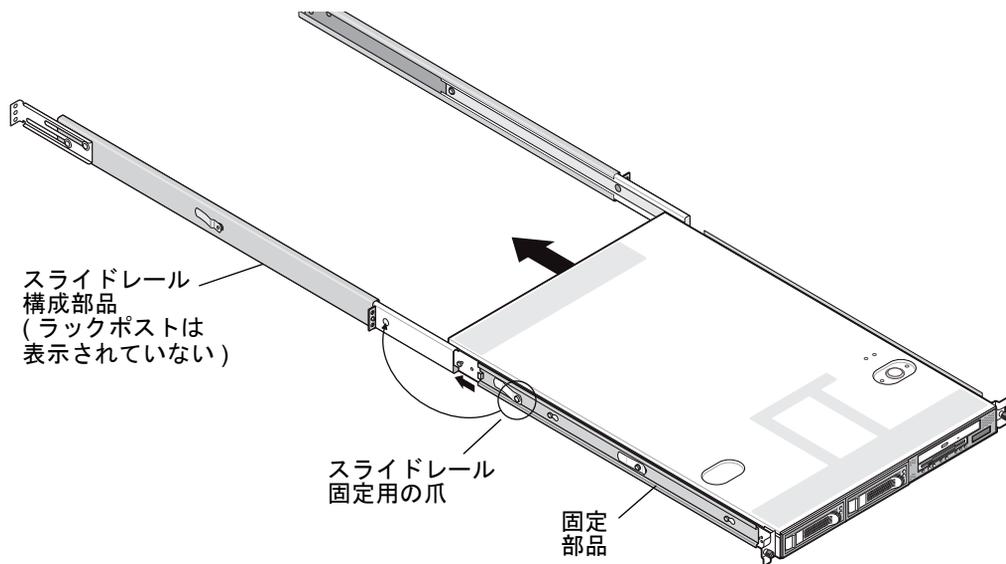


図 1-4 ラックへの Sun Fire V20z サーバーの設置

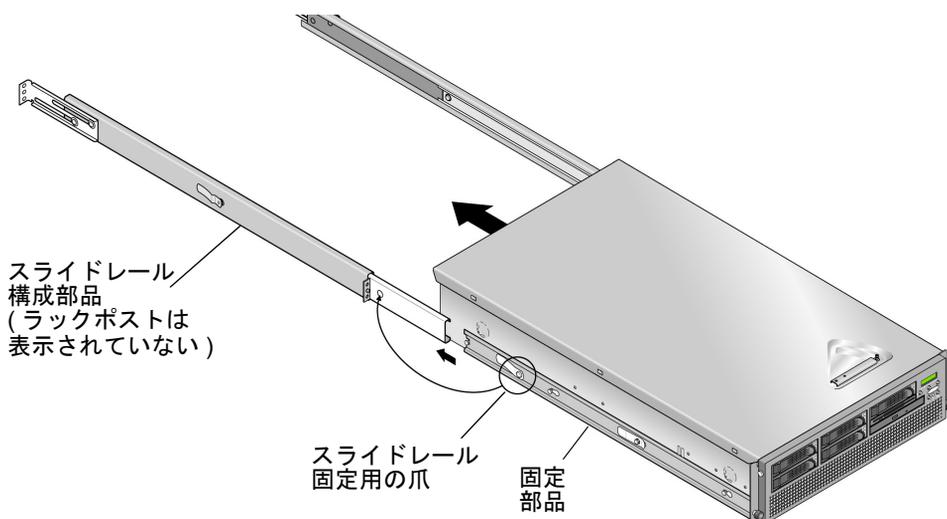


図 1-5 ラックへの Sun Fire V40z サーバーの設置

4. ラックの所定の位置までサーバーを押し込み、サーバーの正面にある脱落防止機構付きつまみねじを、スライドレール構成部品の正面側留め具の中央の穴に差し込んで締めます (図 1-6 または図 1-7 を参照)。

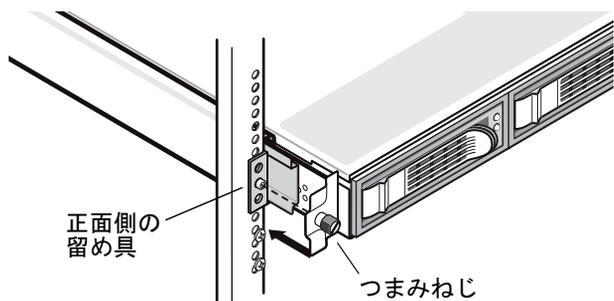


図 1-6 ラックへの Sun Fire V20z サーバーの固定

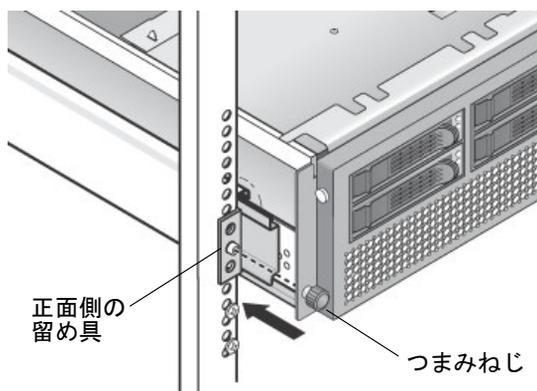


図 1-7 ラックへの Sun Fire V40z サーバーの固定

# ケーブル配線

次の手順に従って、サーバーの背面にケーブルを接続します。サーバーのコネクタポートの位置については、図 1-8 または図 1-9 を参照してください。

1. キーボードケーブルをキーボードコネクタに接続します。
2. マウスケーブルをマウスコネクタに接続します。
3. ビデオモニターケーブルをビデオコネクタに接続します。

これらのサーバーでは、VGA マルチシンクモニターがサポートされています。

---

注 – キーボード、マウス、およびビデオは、ヘッドレス処理をサポートするオペレーティングシステムでは省略可能です。

---

4. Ethernet ケーブルをサービスプロセッサ (SP) コネクタとプラットフォーム Gigabit コネクタに接続します。

サーバーの相互接続およびサーバーと LAN との接続については、12 ページの「サーバーのデিজチェーン」を参照してください。

5. AC 電源コードを AC 電源コネクタに接続します。



---

注意 – Sun Fire V40z サーバーでは、サーバーの 2 つの電源装置のいずれかに AC 電源コードが接続されているかぎり、SP および基本ハードウェアに AC 電源が供給されます。SP が起動し、起動が完了すると、正面パネルの LCD ディスプレイに「Main Power Off」というメッセージが表示されます。

---

## Sun Fire V20z サーバーに関する注意事項

### Ethernet ポートのラベル

Sun Fire V20z サーバーの背面パネルにある Ethernet ポートのラベルに注意してください。図 1-8 に示すように、サーバーの右端にある上のインタフェース eth1 ポートは「1」、下のインタフェース eth0 ポートは「0」になっています。

## PCI スロットのラベル

サーバーの背面パネルにある PCI スロットには、PCI 0 (電源装置の横) および PCI 1 (SP Ethernet ポートとプラットフォーム Ethernet ポートの間) のラベルが付けられています。図 1-8 を参照してください。

- PCI 0 に対応するマザーボード上のスロットは、シルクスクリーンラベル「Slot 2 133MHz」で識別される。
- PCI 1 に対応するマザーボード上のスロットは、シルクスクリーンラベル「Slot 1 66MHz」で識別される。

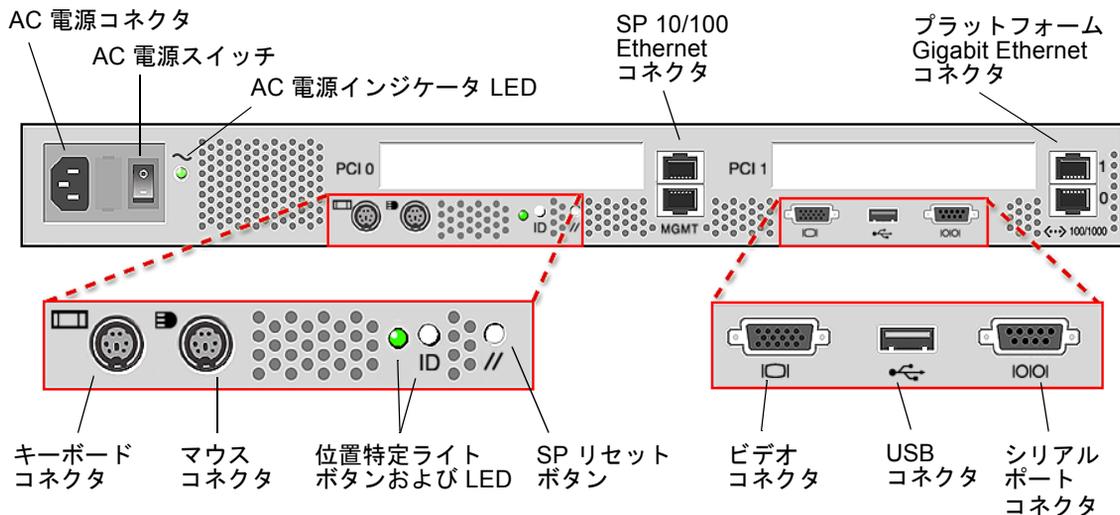


図 1-8 Sun Fire V20z サーバーの背面パネル

# Sun Fire V40z サーバーに関する注意事項

## Ethernet ポートのラベル

Sun Fire V40z サーバーの背面パネルにある Ethernet ポートのラベルに注意してください。シャーシの右端にあるプラットフォーム Gigabit (Gb) Ethernet ポートを確認すると (図 1-9 を参照)、下の Ethernet インタフェースが eth0 で、上のインタフェースが eth1 になっています。

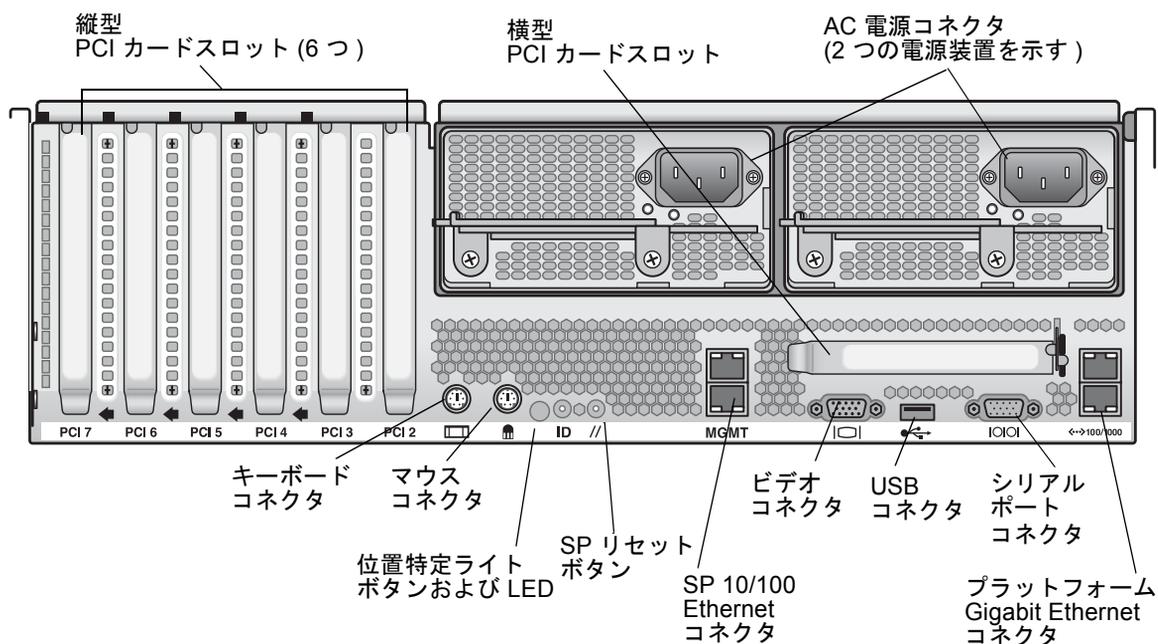
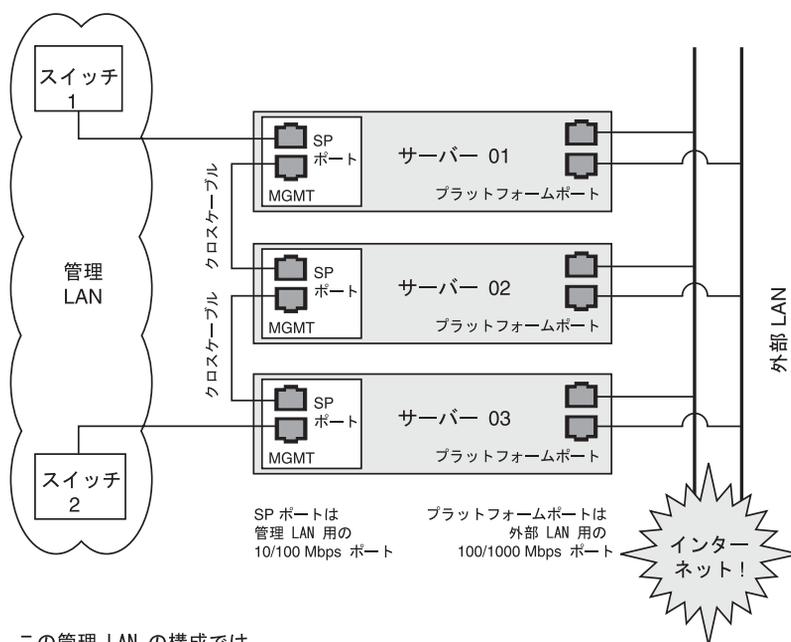


図 1-9 Sun Fire V40z サーバーの背面パネル

## サーバーのデジチェーン

図 1-10、図 1-11、および図 1-12 に示すように、SP コネクタを使用して管理 LAN を形成すると、さまざまなデジチェーン構成で複数のサーバーを相互接続できます。また、図には、プラットフォーム Gigabit コネクタを使用して、サーバーを外部 LAN に接続する方法も示されています。

注 - サーバーのデジチェーンでは、1 m 以上のクロスケーブルを使用することをお勧めします。

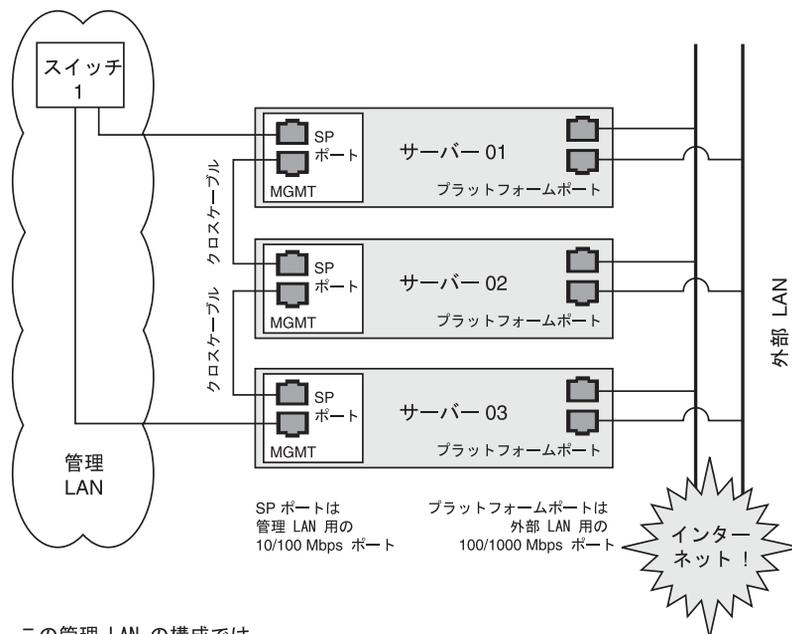


この管理 LAN の構成では、スイッチレベルでの冗長性を実現される。

図 1-10 管理 LAN 上でスイッチレベルでの冗長性を実現する場合のデジチェーンアーキテクチャ

サーバーを相互接続するには、RJ-45 クロスケーブルを使用する必要があります。ケーブルは、上下どちらの SP ポートにも接続できます。サーバーをデジチェーンで構成するには、チェーン内の最初と最後のサーバーを異なるスイッチに接続します。

図 1-10 に示した構成で、チェーンの最初と最後の両方を冗長接続するには、スパンニングツリー対応の管理されたスイッチが 2 台必要です。スイッチがスパンニングツリー検出に対応していない場合は、チェーンの最初と最後の両方ではなく、いずれか一方にのみ接続します。



この管理 LAN の構成では、SP ポートレベルでの冗長性を実現される。

図 1-11 管理 LAN 上でポートレベルでの冗長性を実現する場合のデジチェーンアーキテクチャ

サーバーを相互接続するには、RJ-45 クロスケーブルを使用する必要があります。ケーブルは、上下どちらの SP ポートにも接続できます。サーバーをデジチェーンで構成するには、チェーン内の最初と最後のサーバーを異なるスイッチに接続します。

図 1-11 に示した構成で、チェーンの最初と最後の両方を冗長接続するには、スパンニングツリー対応の管理されたスイッチが 1 台必要です。スイッチがスパンニングツリー検出に対応していない場合は、チェーンの最初と最後の両方ではなく、いずれか一方にのみ接続します。

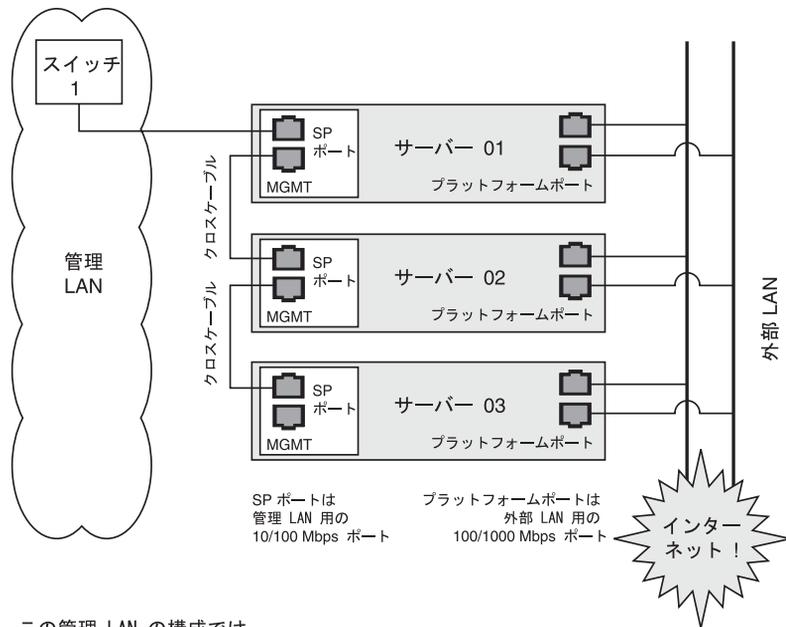


図 1-12 管理 LAN 上での冗長性を実現しない場合のダイジーチェーンアーキテクチャ

サーバーを相互接続するには、RJ-45 クロスケーブルを使用する必要があります。ケーブルは、上下どちらの SP ポートにも接続できます。

図 1-12 に示した構成では、管理 LAN 上での冗長性は実現されません。

---

## サーバーの電源投入と起動

サーバーの電源を入れて起動するには、次の手順を実行します。



---

**注意** – ファン、コンポーネントヒートシンク、エアバッフ、およびカバーをすべて取り付けるまで、サーバーを操作しないでください。適切な冷却機構を使用せずに操作すると、サーバーのコンポーネントに深刻な損傷が生じる可能性があります。

---



---

**注意** – Sun Fire V40z サーバーに「はじめて」電源を入れる前に、サーバーの PCI カードスロットおよび CPU カードスロットから梱包用の挿入具を取り外して、通気と冷却が適切に行われるようにする必要があります。これらの梱包用の挿入具は、輸送中の保護の役割を果たすものであるため、廃棄してもかまいません。プラスチック製のエアバッフ挿入具は、PCI スロットから取り外さないでください。

サーバーの更新リリース (シャーシ PN 380-1206) は、PCI カードスロットに梱包用の挿入具が挿入されていない状態で出荷されます。

---

1. Sun Fire V40z サーバーにはじめて電源を入れる場合は、この手順を実行して梱包用の挿入具を取り外します。それ以外の場合は、手順 2 に進みます。
  - a. カバーラッチの脱落防止機構付きねじを緩めてから、ラッチをシステム背面方向へ回転させて、カバーを後方へ押します (図 1-13 を参照)。
  - b. カバーを持ち上げて取り外します。

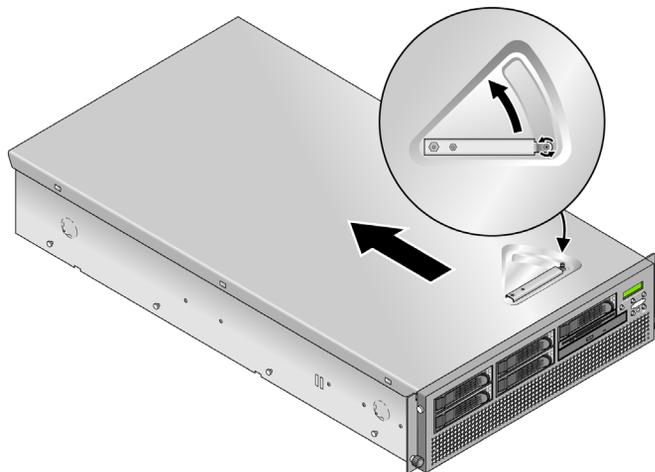


図 1-13 Sun Fire V40z サーバーのカバーの取り外し

- c. プラスチック製の梱包用の挿入具を、システムの背面パネル近くの PCI スロットエリアから取り外します。

---

注 – プラスチック製のエアバッフル挿入具は、PCI スロットから取り外さないでください。

---

- d. 正面ベゼルの両側にあるゴム製のボタンを押してから、ベゼルの上端を下方方向に回転させて、サーバーからベゼルを取り外します (図 1-14 を参照)。

---

注 – サーバーの更新リリース (シャーシ PN 380-1206) は、CPU カードスロットに梱包用の挿入具が挿入されていない状態で出荷されます。

---

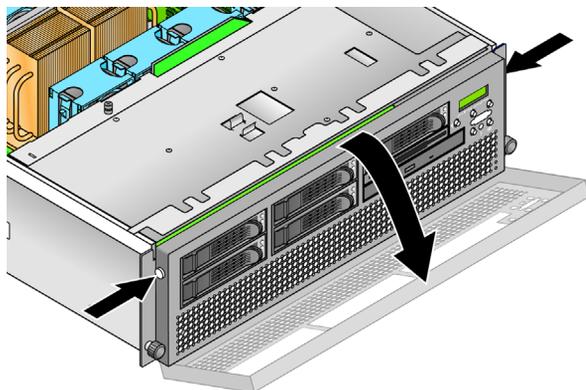


図 1-14 正面ベゼルの取り外し

- e. ハードドライブベイの下にある CPU カードのドアを開き、CPU カードにアクセスします。ドアの 2 つのボタンを押して、閉じ位置から 180 度開いた状態になるように、ドアを下方方向に回転させます (図 1-15 を参照)。

---

注 – この手順は、サーバーをラックに取り付けた状態で行うことができます。サーバーがラック内にある場合は、サーバーをラックから約 76 mm (3 インチ) 手前に引き出してスペースを確保してから、CPU カードのドアを開けてください。

---

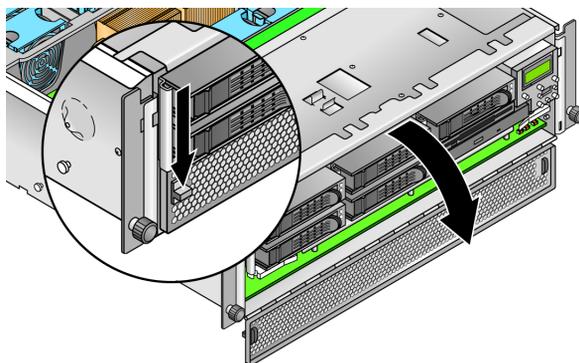


図 1-15 CPU カードドアの開け方

- f. CPU カードスロットから梱包用の挿入具を取り外します。
  - g. CPU カードのドアを閉じて、正面ベゼルをサーバーに取り付けます。
  - h. カバーをサーバーに取り付け、カバーラッチを固定する脱落防止機構付きねじを締めます。
2. アースされた AC 電源コードが、サーバー背面にあるすべての AC 電源コネクタと AC 電源コンセントに差し込まれていることを確認します。コネクタの位置については、図 1-8 または図 1-9 を参照してください。



---

**注意** – Sun Fire V40z サーバーでは、サーバーの 2 つの電源装置のいずれかに AC 電源コードが接続されているかぎり、SP および基本ハードウェアに AC 電源が供給されます。SP が起動し、起動が終了すると、正面パネルの LCD ディ스플레이に「Main Power Off」というメッセージが表示されます。

---

3. 使用するサーバーの種類に応じて、次の 2 つのうちいずれかの方法でサーバーの電源を入れます。
  - Sun Fire V20z サーバーを使用する場合は、次の手順を実行します。
    - a. サーバーの背面パネルにある AC 電源スイッチをオンにします (図 1-8 を参照)。このスイッチをオンにすると、SP および基本ハードウェアに AC 電源が供給されます。
    - b. サーバーの正面パネルにあるプラットフォーム電源ボタンを押して離します (図 1-16 を参照)。このボタンによって、BIOS、オペレーティングシステム、およびドライバに電源が供給されます。

- Sun Fire V40z サーバーを使用する場合は、サーバーの正面パネルにあるプラットフォーム電源ボタンを押して離します (図 1-17 を参照)。

このボタンによって、BIOS、オペレーティングシステム、およびドライバに AC 電源が供給されます。Sun Fire V40z サーバーには AC 電源スイッチがないため、電源コードを電源装置に差し込んだ時点で、基本の AC 電源がすでに供給されています。

注 – サーバーをはじめて起動するときには、起動処理が停止し、モニターに「Operating system not found」というメッセージが表示され、正面パネルの LCD に「OS Booting」というメッセージが表示されます。オペレーティングシステムをインストールするまでは、これは正常な動作です。

4. このマニュアルの第 2 章の説明に従って、ソフトウェアの初期設定を行います。

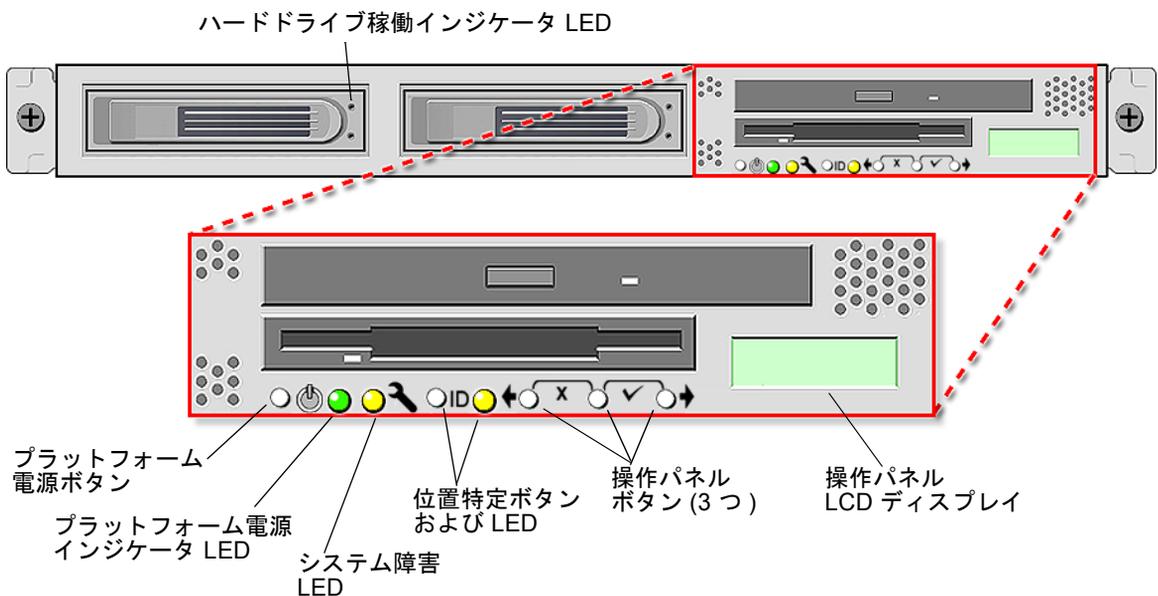


図 1-16 Sun Fire V20z サーバーの正面パネル

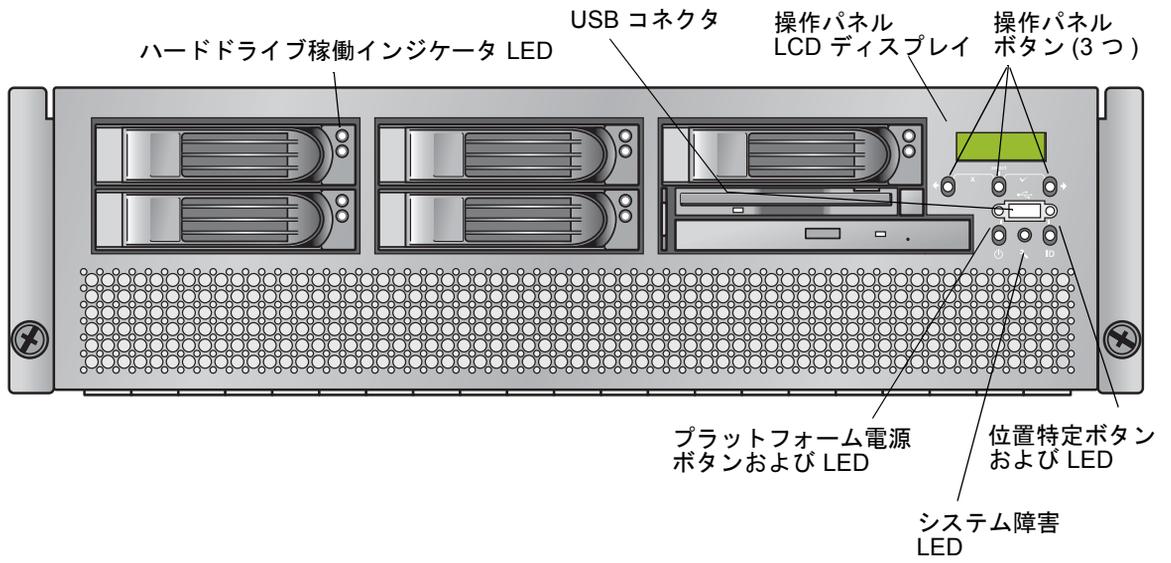


図 1-17 Sun Fire V40z サーバーの正面パネル



## 第2章

---

# ソフトウェアの初期設定

---

Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーをはじめて設定する場合は、いくつかの初期設定作業を実行する必要があります。この章では、次の初期手順について説明します。

- 22 ページの「サービスプロセッサの設定」
  - 22 ページの「SP のネットワーク設定の定義」
  - 29 ページの「サーバー名の定義」(オプション)
  - 26 ページの「初期マネージャアカウントの作成」
- 32 ページの「NSV ソフトウェアのインストールおよびマウント」
- 34 ページの「プラットフォームのオペレーティングシステムとドライバの設定」

---

**注** – オペレーティングシステムは、サービスプロセッサ (SP) やネットワーク共有ボリューム (NSV) を設定しなくてもサーバーにインストールできます。ただし、SP と NSV の設定を省略すると、システムの遠隔管理機能や診断は使用できなくなります。

---

---

# サービスプロセッサの設定

---

**注意** – サービスプロセッサ (SP) は、サーバーをはじめて配置するときに、ユーザー名とパスワードでセキュリティー保護しておく必要があります。SP のセキュリティー保護を行わないと、SP のネットワークインタフェースを介して、サーバーのセキュリティーおよび可用性が脅かされる危険性があります。

---

Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーには、サーバーの完全な独立性とサーバー管理の最大限の可用性を実現するための、専用の SP が搭載されています。SP は組み込み型の PowerPC で、次の機能を提供します。

- プラットフォームの環境監視 (温度、電圧、ファン速度、パネルスイッチなど)
- 問題が発生した場合の警告メッセージ
- 遠隔からのサーバー操作の制御 (サーバーのオペレーティングシステムの起動/停止/再起動、サーバーの電源の投入/切断、BIOS のサーバー起動プロセスの停止、BIOS のアップグレード)

サーバーに AC 電源が供給されると、SP に対する IP アドレスの設定や関連するネットワーク設定など、SP の設定を開始できる状態になります。SP のネットワーク設定は、DHCP を使用するか、または静的 IP アドレスを使用して行うことができます。

## SP のネットワーク設定の定義

この節では、SP のネットワーク設定を定義するための 2 つの方法について説明します。

- 22 ページの「DHCP を使用した SP のネットワーク設定の割り当て」
- 24 ページの「静的な SP のネットワーク設定の割り当て」

## DHCP を使用した SP のネットワーク設定の割り当て

次の手順では、操作パネルから DHCP を使用して SP のネットワーク設定を行う方法について説明します。ネットワークで DHCP が使用されていない場合、または SP に静的 IP アドレスを割り当てる場合は、24 ページの「静的な SP のネットワーク設定の割り当て」の手順を実行してください。

1. サーバーの正面パネルにある操作パネルのいずれかのボタンを押します (図 2-1 を参照)。

LCD パネルには、最初のメニューオプションが次のように表示されます。

Menu:

Server Menu

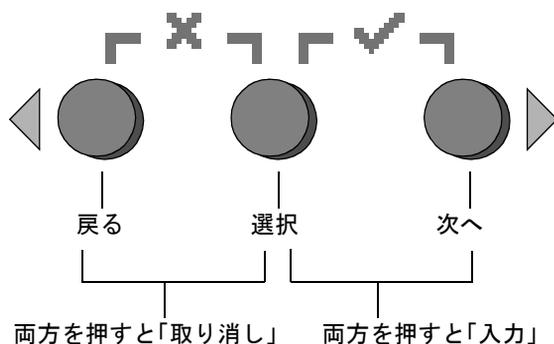


図 2-1      操作パネルのボタン

2. 「SP menu」が表示されるまで、「次へ」ボタンを押します。

Menu:

SP menu

3. 「選択」ボタンを押して、SP メニューオプションを表示します。

SP Menu:

Set SP IP info?

4. 「選択」ボタンを押します。

デフォルトでは、次のプロンプトが表示されます。

SP use DHCP?

No

5. 「次へ」ボタンを押して Yes に変更してから、「選択」ボタンを押します。

6. 確認プロンプトで「選択」ボタンを押します。

SP use DHCP:

Yes?

サーバーは、IP アドレスを取得するために DHCP への接続を試みます。サーバーが DHCP からの応答を受信すると、DHCP から割り当てられた SP の IP アドレスが LCD パネルに表示されます。SP のアドレスが設定され、サーバーが使用可能になります。

---

注 - ネットワークの状態によっては、DHCP サーバーから新しく割り当てられた IP アドレスが LCD パネルに表示されるまでに 5 ～ 10 秒かかる場合があります。

---

7. 初期マネージャーアカウントの作成手順に関する、26 ページの「初期マネージャーアカウントの作成」に進みます。

---

注 - 自動設定を行うかどうかを確認するプロンプトが表示されます。手動で SP を設定する代わりに、自動設定を実行して、1 つの SP の設定をほかの SP に複製することもできます。自動設定の手順については、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—サーバー管理マニュアル』を参照してください。

---

## 静的な SP のネットワーク設定の割り当て

静的 IP アドレスを使用して SP のネットワーク設定を行う場合は、操作パネルで次の手順を実行します。サブネットマスクおよびデフォルトゲートウェイを指定する必要があります。ここでは、次の設定を例として使用します。

IP アドレス: 10.10.30.5

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ: 10.10.30.254

1. サーバーの正面パネルにある操作パネルのいずれかのボタンを押します (図 2-1 を参照)。

LCD パネルには、最初のメニューオプションが次のように表示されます。

Menu:

Server Menu

2. 「SP menu」が表示されるまで、操作パネルの「次へ」ボタンを押します。

Menu:

SP menu

3. 操作パネルの「選択」ボタンを押して、SP メニューオプションを表示します。

SP Menu:

Set SP IP info?

4. 操作パネルの「選択」ボタンを押します。デフォルトでは、次のプロンプトが表示されます。

SP use DHCP?

No

5. 操作パネルの「選択」ボタンを押します。

LCD に次のように表示されます。

SP IP Address:

0.0.0.0

6. 最初のフィールドにカーソルを置き、操作パネルの「戻る」または「次へ」ボタンを使用して値を増減します。

このフィールドには、0 ~ 255 の任意の値を指定できます。

SP IP Address:

10.0.0.0

7. 指定する値になったら、操作パネルの「選択」ボタンを押して、カーソルを次のフィールドに移動します。

SP IP Address:

10.0.0.0

8. 目的の IP アドレスが表示されるまで、各フィールドに対して手順 6 および手順 7 を繰り返し、「入力」の組み合わせでボタンを押して IP アドレスを保存します。

次のネットワーク設定項目であるサブネットマスクに処理が進みます。LCD に次のように表示されます。

SP netmask:

255.255.255.0

9. IP アドレスの設定時と同じ方法で、サブネットマスクの設定を編集します。編集が終了したら、「入力」の組み合わせでボタンを押してサブネットマスクを保存します。

次のネットワーク設定項目であるデフォルトゲートウェイに処理が進みます。LCD に次のように表示されます。

SP IP Gateway

10.10.30.1

10. IP アドレスおよびサブネットマスクの設定時と同じ方法で、デフォルトゲートウェイの設定を編集します。編集が終了したら、「入力」の組み合わせでボタンを押してデフォルトゲートウェイを保存します。

LCD に次の確認プロンプトが表示されます。

Use new IP data:

Yes?

11. 新しいデータを使用する場合は、操作パネルの「選択」ボタンを押します。取り消す場合は、「取り消し」の組み合わせでボタンを押します。

この時点で、SP アドレスが設定され、サーバーが使用可能になります。

---

**注** – 自動設定を行うかどうかを確認するプロンプトが表示されます。手動で SP を設定する代わりに、自動設定を実行して、1 つの SP の設定をほかの SP に複製することもできます。自動設定の手順については、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—サーバー管理マニュアル』を参照してください。

---

12. 26 ページの「初期マネージャーアカウントの作成」に進みます。

## 初期マネージャーアカウントの作成

サーバーの設置および SP のネットワーク設定が完了したら、初期マネージャーアカウントを作成する必要があります。これにより、サーバーの初期設定や、その他のユーザーアカウントの作成を行うことができます。システムの初期設定を行なった管理者のみが、初期マネージャーアカウントを作成できます。

各サーバーには、設定用アカウントが用意されています。この設定用アカウントにはパスワードがありません。設定用アカウントを使用してはじめて SP にログインすると、初期マネージャーアカウントの定義を求めるプロンプトが表示されます。初期マネージャーアカウントには、パスワードのほか、任意で公開鍵も指定できます。

ユーザー名とパスワードは、任意の英数字、下線、ハイフン、またはピリオドで構成される文字列です。

- ユーザー名は一意であり、先頭の文字が英字である必要がある。
- パスワードでは任意のプリント可能な文字を使用でき、大文字と小文字が区別される。
- ユーザー名またはパスワードは 32 文字以内に制限されており、無効な文字列または空の文字列は使用できない。

初期マネージャーアカウントは、次の 2 とおりの方法で作成できます。

- コマンド行を使用。詳細は、27 ページの「コマンド行を使用した初期アカウントの作成」を参照してください。
- システム管理 (SM) コンソールを使用。詳細は、27 ページの「SM コンソールを使用した初期アカウントの作成」を参照してください。

## コマンド行を使用した初期アカウントの作成

設定用アカウントでログインし、初期マネージャーアカウントを作成するには、次の手順を実行します。

1. SSHv1 または SSHv2 クライアントを使用して、SP の IP アドレスに接続します。
2. 次のように、パスワードを必要としないユーザー `setup` として認証を行います。

```
# ssh sp_ip_address -l setup
```

3. 画面上のプロンプトに従って、初期マネージャーアカウントを作成します。

初期マネージャーアカウントを作成すると、設定用アカウントが削除され、サーバーからログアウトされます。これで、新しい初期マネージャーアカウントでログインし、その他のユーザーアカウントを作成できるようになります。

---

**注** – パスワードを求めるプロンプトが表示された場合は、SP がすでにアカウントでセキュリティ保護されていることを示します。管理ユーザー名およびパスワードが不明である場合は、操作パネルで「SP」メニューに移動し、「Use defaults」オプションを選択して SP をリセットできます。ユーザーおよびネットワークの現在の設定がすべて失われ、SP が再起動するので注意してください。

---

初期マネージャーアカウントの作成が完了したら、29 ページの「サーバー名の定義」または 30 ページの「サーバーの管理およびプラットフォームソフトウェア」に進みます。

## SM コンソールを使用した初期アカウントの作成

SM コンソールを使用して初期マネージャーアカウントを作成するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザで、URL またはアドレスとして SP 名または IP アドレスを入力して、SM コンソールを実行します。

---

**注** – 初期マネージャーアカウントを作成するときに、ライセンス契約への同意を求めるプロンプトが表示されます。初期マネージャーアカウントを作成すると、このプロンプトは表示されなくなります。

---

2. 「Create Initial Manager-Level User ID」画面で、このアカウントのユーザー ID を入力します。
3. アカウントのパスワードを入力します。
4. 確認のために、再度パスワードを入力します。

5. チェックマークのボタンをクリックします。
6. SM コンソールを使用して、初期設定オプションを選択します。

初期マネージャーレベルのユーザーを作成すると、SM コンソールに「Initial Configuration Checklist」画面が表示されます。ここで、SP の初期設定に必要なオプションを決定できます。

「Initial Configuration Checklist」は、SM コンソールのメニューオプションおよび各オプションの設定に使用するコマンドが示されている表です。また、各オプションの詳細を説明するオンラインヘルプへのリンクも示されています。

---

**注** – この表は、初期マネージャーユーザーを作成したあとにのみ表示されます。そのため、最初にそのアカウントを設定する管理者、または操作パネルを使用してアカウントをリセットする管理者のみが、この表にアクセスできます。

---

初期マネージャーアカウントの作成が完了したら、29 ページの「サーバー名の定義」または 30 ページの「サーバーの管理およびプラットフォームソフトウェア」に進みます。

---

# サーバー名の定義

必要に応じて、サーバーの名前を定義できます。この名前は、SP がアイドル状態のときに操作パネルの LCD に表示されます。名前を定義すると、LCD に SP の名前と IP アドレスが交互に数秒間表示されます。

---

注 – この名前は、便宜的に使用するためのサーバーの識別用の名前です。ネットワーク上のサーバーの DNS ホスト名ではありません。

---

1. サーバーがバックグラウンド状態のときに、操作パネルのいずれかのボタンを押します (図 2-1 を参照)。

ボタンを押すと、LCD パネルに最初のメニューオプションが次のように表示されます。

Menu:  
Server Menu

2. 「Panel menu」が表示されるまで、「次へ」ボタンを押します。

Menu:  
Panel menu

3. 「選択」ボタンを押して、パネルメニューオプションを表示します。

4. 「Name for LCD」メニューオプションが表示されるまで、「次へ」ボタンを押します。

Panel Menu:  
Name for LCD?

5. 「選択」ボタンを押して、データを入力できるようにします。

6. LCD の先頭行に表示する英数字の文字列を入力します。

英字の A ~ Z、数字の 0 ~ 9、ハイフン、およびスペースを入力できます。

- a. 「次へ」と「戻る」ボタンを使用して、各フィールドに入力する文字を探します。
  - b. 目的の文字が見つかったら、「選択」ボタンを押します。
  - c. 名前全体の入力完了するまで、この処理を繰り返します。
7. 「入力」のボタン組み合わせ (「次へ」と「選択」) を使用して、入力した名前を保存します。

---

# サーバーの管理およびプラットフォームソフトウェア

この節では、サーバーに付属の CD に収録されているネットワーク共有ボリューム (NSV) 構造、およびソフトウェアの解凍とインストールの手順 (32 ページの「NSV ソフトウェアのインストールおよびマウント」を参照) について説明します。

通常、SP は外部ファイルシステムにアクセスすることなく機能しますが、イベントログファイル、ソフトウェアの更新、診断や障害追跡用のダンプユーティリティなど、いくつかの機能を使用可能にするにはファイルシステムが必要になります。NSV は、複数の SP で共有されるように設定できます。管理者およびマネージャーレベルのユーザーは外部のファイルシステムを設定できますが、監視ユーザーは、読み取り専用アクセス権で現在の設定の表示のみを行うことができます。

このサーバーには、次のソフトウェアコンポーネントが含まれています。

- プラットフォーム BIOS
- SP 基本ソフトウェア
- SP 付加価値ソフトウェア
- Java Runtime Environment (JRE) パッケージをダウンロードするための更新ファイル
- ネットワーク共有ボリューム (診断を含む)
- プラットフォームソフトウェア
- マザーボードのプラットフォームドライバ

これらのソフトウェアパッケージは、すべて NSV と一緒にパッケージ化されており、外部ファイルシステムをインストールおよび設定するときにファイルサーバーにインストールされます。詳細は、32 ページの「NSV ソフトウェアのインストールおよびマウント」に記載されています。

## ネットワーク共有ボリュームの構造

表 2-1 に、Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Network Share Volume CD-ROM に含まれている圧縮パッケージを示します。

表 2-1 Network Share Volume CD-ROM の圧縮パッケージ

ファイル名	ファイルの内容
nsv_V2_2_0_x.zip	SP ソフトウェア用のいくつかのサポートを含む SP およびプラットフォーム診断
nsv-redhat_V2_2_0_x.zip	Red Hat Linux OS 用ドライバ
nsv-solaris_V2_2_0_x.zip	Solaris 9 OS および Solaris 10 OS 用ドライバ
nsv-suse_V2_2_0_x.zip	SUSE Linux OS 用ドライバ

表 2-1 の圧縮パッケージを解凍すると、NSV 上に次のディレクトリが生成されます。

```
/mnt/nsv/  
diags  
logs  
scripts  
snmp  
update_server  
sw_images (OS 固有のいずれかの .zip ファイルを解凍すると、このフォルダが作成される)
```

表 2-2 ネットワーク共有ボリュームのディレクトリ

ディレクトリ名	説明
diags	サーバー診断のオフライン位置。
logs	SP 用ログファイルのオフライン位置。
scripts	コマンドのスクリプト化に使用できるサンプルスクリプト。
snmp	SNMP MIBS。 詳細は、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—サーバー管理マニュアル』(819-2923) の第 3 章を参照してください。
update_server	SP ソフトウェアおよび BIOS を更新するためのアプリケーション。 詳細は、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—サーバー管理マニュアル』(819-2923) の第 1 章を参照してください。
sw_images	プラットフォームおよび SP コンポーネントのディレクトリ階層、各バージョンに対応するサブディレクトリを含む。

# NSV ソフトウェアのインストールおよびマウント

## この手順に必要な装置

- Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Network Share Volume CD (NSV パッケージを含む)
- NFS サーバー (CD からの NSV パッケージのコピー先)

---

注 - NFS サーバーには、NFS をサポートしており、サーバーの SP ポートと同じネットワークに接続されている任意のサーバーを使用できます。次の手順では、NFS サーバーで Linux または UNIX が動作していることを想定しています。異なる OS を使用している場合は、その OS のマニュアルを参照して、使用する正確なコマンドを確認してください。

---

NSV をインストールおよび設定するには、次の手順を実行します。

1. 使用する NFS サーバーと同じネットワークにサーバーの SP を接続します。  
サーバーを管理 LAN に接続する場合の SP コネクタの位置とガイドラインについては、9 ページの「ケーブル配線」を参照してください。
2. Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Network Share Volume CD を NFS サーバーに挿入してマウントします。
3. 次のコマンドを入力して、NSV パッケージを含むフォルダを CD から NFS サーバーにコピーします。  

```
# cp -r /mnt/cdrom/NSV_file_directory /mnt/nsv/
```
4. サーバー上で NSV の圧縮パッケージを含むディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してパッケージを解凍します。  

```
# cd /mnt/nsv/  
# unzip -a *.zip
```

---

注 - Linux プラットフォーム上で圧縮ファイルを解凍する場合は、前述のように **-a** スイッチを使用して、テキストファイルが目的のオペレーティングシステムに適した改行コードに変換されるようにします。

---

パッケージを解凍すると、次のディレクトリが生成されます。

```
/mnt/nsv/  
diags  
logs  
snmp  
update_server  
sw_images
```

5. サーバーの診断を実行する場合は、次のコマンドを実行して、`diags` ディレクトリ内のファイルに適切なアクセス権を与えます。

```
# chmod 777 /mnt/nsv/diags/NSV_version_number/scripts  
# chmod -R 755 /mnt/nsv/diags/NSV_version_number/mppc
```

6. NFS サーバーのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、SSH を介して Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーの SP にログインします。

```
# ssh -l admin_or_higher_login SSH_hostname
```

---

注 – 次の手順に進む前に、ネットワーク上で NFS が有効であることを確認してください。Linux が動作しているシステムでは、この作業を手動で行う必要があります。NFS を有効にする手順については、動作中の Linux のバージョンに応じたマニュアルを参照してください。

---

7. 次のコマンドを入力して、Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーの SP に NSV をマウントします。

```
# sp add mount -r NFS_server_hostname:/directory_with_NSV_files -l /mnt
```

---

注 – DHCP ネットワークに SP を設定していない場合は、`NFS_server_hostname` ではなく、`NFS_server_IP_address` を使用する必要があります。

---

8. 34 ページの「プラットフォームのオペレーティングシステムとドライバの設定」に進みます。

---

# プラットフォームのオペレーティングシステムとドライバの設定

---

注 - オペレーティングシステムは、SP や NSV を設定しなくてもサーバーにインストールできます。ただし、SP と NSV の設定を省略すると、システムの遠隔管理機能や診断は使用できなくなります。

---

SP と NSV ソフトウェアの設定後、プラットフォームのオペレーティングシステム (OS) とドライバをインストールできます。

- サポートされている Linux OS および必要なドライバのインストールについては、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—Linux オペレーティングシステムインストールマニュアル』を参照してください。
- Solaris™ OS のインストールについては、Solaris OS ソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。このマニュアルは次の URL でも参照できます。  
<http://docs.sun.com/db/prod/solaris>
- このサーバーに固有の、Solaris OS に関する追加の考慮事項についても、Documentation and Support Files CD に収録されている『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—ご使用にあたって』を参照してください。このマニュアルは次の URL でも参照できます。

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup\\_Servers/Sun\\_Fire\\_V20z/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup_Servers/Sun_Fire_V20z/index.html)

# 索引

---

## S

Sun Fire V20z

正面パネル, 18

Sun Fire V40z

正面パネル, 19

背面パネルのコネクタ, 11

## い

インストール

オペレーティングシステム, 34

インストール、ネットワーク共有ボリューム, 32

## お

オペレーティングシステムとドライバのインストール, 34

## き

規則、ユーザー名とパスワード, 26

## け

ケーブル配線, 9

## こ

工具類, 4

コネクタ、Sun Fire V40z, 11

梱包用の挿入具、取り外し, 15

梱包用の挿入具の取り外し, 15

## さ

サーバーの管理およびプラットフォームソフトウェアの概要, 30

サーバーの相互接続, 12

サーバーの電源投入, 15

サーバー名、定義, 29

サービスプロセッサ  
設定, 22

ネットワーク設定の割り当て、DHCP, 22

ネットワーク設定の割り当て、静的, 24

サービスプロセッサの設定, 22

サービスプロセッサのネットワーク設定の割り当て、DHCP, 22

サービスプロセッサのネットワーク設定の割り当て、静的, 24

作成、初期マネージャアカウント, 26

## し

正面パネルのボタン、Sun Fire V20z, 18

正面パネルのボタン、Sun Fire V40z, 19

初期マネージャアカウント、作成, 26

## せ

### 設置

概要, 1

ケーブル配線, 9

工具類, 4

サーバーの相互接続, 12

電源投入, 15

ラック, 4

設定、サーバー名, 29

設定用アカウントのログイン, 26

## そ

操作パネルの位置、Sun Fire V20z, 18

操作パネルの位置、Sun Fire V40z, 19

操作パネルのボタンの機能, 23

## て

定義、デフォルトのサーバー名, 29

デিজチェーン構成, 12

デフォルトのサーバー名、定義, 29

## と

ドライバのインストール, 34

## に

認証, 26

## ね

ネットワーク共有ボリューム

インストールおよびマウント, 32

解凍された内容, 31

概要, 30

構造, 31

ネットワーク設定、DHCP, 22

ネットワーク設定、静的, 24

## は

背面パネル、Sun Fire V40z, 11

はじめてのログイン, 26

パスワード, 26

パスワードの規則, 26

## ま

マウント、ネットワーク共有ボリューム, 32

## ゆ

ユーザー名, 26

ユーザー名の規則, 26

## ら

ラックへの設置, 4